

令和7年度 研究報告

# 児童生徒の 学びをつなぐ 授業づくり

～児童生徒の「思い」や「願い」を踏まえて～  
(1年次/2年計画)



秋田県立支援学校  
天王みどり学園

## 研究主題設定の理由

## 1 過年度の研究から

- 「見取り」が本校の強みとして確立
- チームで取り組む授業づくり
- ▲学びの応用・般化
- ▲教科の視点

学びをつなぐ

## 2 目指す児童生徒の姿

- ・「自分で」「自分から」行動する姿
- ・自分の言葉で話す、意思表示する姿
- ・主体的に学びに向かう姿

## 3 社会的要請

- 第四次秋田県特別支援教育総合整備計画
- ・将来を見据えたキャリア教育の充実
  - ・生涯学習の推進

学びをつなぐ

## 研究の目的

児童生徒の「主体的に学びに向かう姿」を基盤とし、一人一人の「思い」や「願い」を踏まえた学びをつなぐ授業づくりに取り組む。その中で、学んだことや身に付けた力を他の学習場面や日常生活へと学びをつなげていく児童生徒の育成を目指す。

## 「学びをつなぐ」の捉え

学びの積み重ね、学びの広がり・活用  
(縦のつながり)、(横のつながり)

## 研究の内容と方法

学びをつなぐ  
授業づくり

児童生徒の「思い」や「願い」を踏まえた学びをつなぐ授業づくり

- ①「学びをつなぐ」ということの共通理解
- ②児童生徒の「思い」や「願い」の把握と具体化、可視化、共有化
- ③学びをつなぐ授業実践とチームで取り組む授業改善の推進

## 「何を学ぶか」の明確化

教科等の視点から  
「何を学ぶか」の整理

- ①ふらっとミーティングにおける学ぶ内容の検討
- ②年間指導計画を活用した意見交換
- ③ツールの効果的な活用方法の検討

## 研究計画

STEP1 4月～6月

STEP2 7月～10月

STEP3 10月～12月

STEP4 1月～3月

学びをつなぐ  
授業づくり

- ・学びをつなぐの共通理解
- ・ふらっとミーティング1  
(児童生徒の情報の共有)
- ・「思い」や「願い」の把握

- ・「思い」や「願い」の具体化、可視化、共有化
- ・ふらっと授業参観1

- ・学びをつなぐ授業実践
- ・ふらっと授業参観2  
全校授業研究会  
11月18日：小学部  
12月4日：中学部  
12月10日：高等部

- ・「思い」や「願い」の具体化、可視化、共有化のまとめ
- ・授業づくりの評価

何を  
学ぶか

- ・ふらっとミーティング2  
(学ぶ内容の整理)
- ・ミニ教育課程検討委員会1
- ・年間指導計画の作成

- ・ふらっとミーティング3  
(授業の進捗状況の確認)
- ・職員研修(単元構想)

- ・ミニ教育課程委員会2

- ・ふらっとミーティング4  
(生徒の変容の共有、まとめ)

## 1年次の目指すゴール

各学部の実践を通して、児童生徒の「思い」や「願い」の把握の仕方やそれを踏まえた授業づくりの方法などをまとめた「学びをつなぐ授業づくりのポイント」を明らかにする。

「学びをつなぐ授業づくりのポイント」は各学部の実践に記載

「学びをつなぐ」ということの共通理解

<b>学びの積み重ね</b> (縦のつながり)	児童生徒の学びや経験を積み重ねていくことで、基礎的な力を育むとともに、成功体験や自己有用感を高める。
<b>学びの広がり・活用</b> (横のつながり)	児童生徒が学んだことを他の学習場面や日常生活などの様々な場面に広げたり、学んだことを活用したりすることで、自分らしく生きる力や自己決定力を育む。

ふらっとミーティングにおける学ぶ内容の検討

単元構想シートを活用して「何を学ぶか」を明確に！

**単元構想シート**

① 児童生徒の実態(興味・関心など)を付箋紙に記入

② 児童生徒に身に付けさせたい力を付箋紙に記入

③ ①、②の付箋紙を資質・能力に分け、学習指導要領を確認して当てはまる内容を記入

④ 学習指導要領を確認し、指導する内容を追記する

⑤ ①②③④を踏まえて仮の単元を設定し、取り扱う内容を記入する

「思い」や「願い」の把握と具体化、可視化、共有化

	把握の仕方	具体化、可視化、共有化の仕方
小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 普段の学習の様子の見取り</li> <li>• 保護者アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教師間での話合い</li> <li>• 保護者面談での共有</li> </ul>
中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教師との個別面談</li> <li>• 日常生活や授業における見取り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教師間での話合い</li> <li>• 学習内容に反映</li> </ul>
高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教師との個別面談</li> <li>• キャリアノートの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• キャリアノートの授業への活用</li> <li>• キャリアノートの教室掲示</li> </ul>

成果と課題

- 研究主題・方向性の共有と浸透
- 教員の「学びをつなぐ」意識の高まり
- 児童生徒の「思い」や「願い」に基づく授業づくりの広がり
- 各学部における「学びをつなぐ授業づくりのポイント」の明確化

- ▲ 学びをつなぐ具体的な実践イメージの不明確さ
- ▲ 「思い」や「願い」の捉え方と授業に生かす難しさ
- ▲ 児童生徒が自ら学びをつなぐ姿の共有不足

今後に向けて

- 1 研究の中心となる言葉の整理と共通理解の推進**
  - 「学びをつなぐ」という捉え方の整理
  - 児童生徒の「思い」や「願い」を授業に生かす視点
  - 具体的な授業場面等の共有による共通理解の促進
- 2 「思い」や「願い」を踏まえた授業デザインの工夫**
  - 一人一人の「思い」や「願い」の丁寧な把握
  - 「学びをつなぐ授業づくりのポイント」の活用
  - 単元構想段階からの系統的な授業デザイン
- 3 児童生徒が自ら学びをつなぐ力を育む授業の充実**
  - 学びの成果や成長の実感
  - 次の学習や他の学習場面、日常生活に生きる授業の充実

学部研究の重点

- ・児童の「思い」や「願い」を把握するための丁寧な見取り、聞き取り
- ・児童の「思い」や「願い」を生かした中心単元の設定
- ・各学級から1名児童を抽出。その姿の見取り、授業改善

研究の実際

児童生徒の「思い」や「願い」の把握と具体化、可視化、共有化

- ・普段の学習の様子を見取り、担任間で十分に話し合い、情報を共有
- ・保護者アンケートを実施、余暇の過ごし方、好きな遊びなどから情報を得た
- ・保護者面談で共有

学びをつなぐ授業実践とチームで取り組む授業改善の推進

- ・抽出児を複数の職員で見取り、複数回、手立ての有効性を検証
- ・抽出児の変容などを話合うエピソードトーク大会を実施
- ・学びのつながり、変容を「つながりシート」にまとめた



学びをつなぐ授業づくりの実際

小学部4、5年生 生活単元学習「屋台だ！わっしょい！② ～小学部のみなさんいらっしゃい！～」

- ・「射的」と「金魚すくい」の屋台
- ・お客さんに楽しんでもらえるように開店準備や接客を練習



抽出児童Aについて

- ・全体指示や言葉のみでの指示理解は難しい。
- ・繰り返し取り組むことで見通しをもち、自分で進められるようになってきている。

学びをつなぐキーワード

- ・全員で目指すゴールの強調（何のために・誰のために）
- ・友達とやりとりするための教師の言葉の精選

授業改善と児童の変容

教師の支援を減らし見守る中で、Aは友達と役割分担して準備を進め素早く行動できるようになった。屋台では、役割を明確にしたことで客の動きに注目し、声掛けやジェスチャーも適切に行えるようになった。休み時間にも自ら友達を誘うなど、関わろうとする姿が育ってきている。



まとめ

- 保護者アンケートや担任間での話し合いで児童の「思い」や「願い」を把握、共有し、児童の興味・関心を生かした授業を実践できた。
- 抽出児童を年間を通して追うことで、中心単元以外の場面で「学びのつながり」の姿を見ることができた。
- ▲次年度はより「つながり」を意識した授業づくりを行う。

学びをつなぐ授業づくりのポイント（案）

- ①活動に見通しがもてるような工夫
- ②安心して取り組むことができる環境の設定
- ③意図的な関わりの場面の設定
- ④授業の振り返りと次時の導入を関連させる工夫

学部研究の重点

生徒の「思い」や「願い」を生かし、教科等の内容を踏まえた生活単元学習の実践

研究の実際

児童生徒の「思い」や「願い」の把握と具体化、可視化、共有化

- ・学校生活・授業場面での対話や活動からの見取り
- ・保護者面談前の生徒面談

ふらっとミーティングにおける学ぶ内容の整理・確認・検討

- ・生活単元学習における「職業・家庭科」の扱う内容や配列の確認
- ・中心単元と進路単元を関連させ往還させた学びの充実

年間指導計画を活用した意見交換

1～3年生の年間指導計画を見合い、3年生の内容を踏まえた2年生の進路単元の再検討、1年生が2年生の学習に円滑につながる進め方の再確認をした。



学びをつなぐ授業づくりの実際

中学部1年 生活単元学習「中1カフェⅣ～先輩たちを招待しよう～」

- ・カフェの開店に向けて話し合いや制作、接客練習などを通して、自分の役割を果たす
- ・友達やカフェの客など、自分以外の人のことを考えて活動したりする



抽出生徒Bについて

- ・人と関わることが好きで周囲を楽しませることができている。
- ・リーダーになりたい思いがあるが、リーダーの役割への理解が不十分。自分本位に進めてしまうことがある。

学びをつなぐキーワード

- ・試行錯誤する経験、機会
- ・積み重ねと少し難しい課題設定
- ・安心感がもてる活動
- ・スモールステップ

授業改善と生徒の変容

これまでの経験を生かし、友達と協力してオレンジジュースを作る活動を設定。これまでの経験から見通しをもって役割分担をし、互いに声を掛け合いながら試行錯誤して進める姿が見られた。教師に見守られることで安心して活動し、カフェ開店日には自信をもって準備に取り組んだ。



まとめ

- 単元構想シートを活用し、単元の検討、見直しを重ねたことで、生徒の「思い」や「願い」を生かす機会を設定することができた。
- 教科の視点で学ぶ内容を再確認し、生徒たちの目標の設定と共有を明確にして進めることができた。
- ▲学びをつなぐ学習計画や手立てについて検討してきたが、生徒自身が学びをつなぐ姿の捉えが明らかになっていなかった。

学びをつなぐ授業づくりのポイント（案）

- ①教科の内容を踏まえた連続性、発展性のある単元の設定と展開
- ②単元や本時の目標の共有と学びを実感するための振り返り方法の工夫
- ③経験したことや学習したことを活用する場や、試行錯誤する場の設定

学部研究の重点

現在の自分と将来の自分をつなげて考える学びを意図的に設定し、実践していくことで生徒の肯定的な自己理解を深める。

研究の実際

児童生徒の「思い」や「願い」の把握と具体化、可視化、共有化

- ・キャリアノートの活用を通して「これまでの自分の成長や変容」「今の思いや願い」や「なりたい自分」の明確化
- ・キャリアノートの実施時期と手続きのポイントを定め、学部内での共通理解



項目	実施時期	手続きのポイント
・目標シート	①4月中旬～ ②9月中旬～	・記入前の個人面談 ・必要に応じて修正 ・完成後、教室に掲示
・評価シート	①9月中旬～ ②3月上旬	・実習外部評価等を基に記入 ・必要に応じて修正

ふらっとミーティングにおける学ぶ内容の整理・確認・検討

単元構想シートを使って学ぶ内容の整理・確認・検討を行った。年度末には、生徒の変容を共有し、学びをつなぐために有効だった学習活動や教材・教具等を確認し、整理した。

学びをつなぐ授業づくりとチームで取り組む授業改善

高等部3年職業Bグループ 職業科「夢の実現に向けて」

夢の実現に向けてマングラチャートで課題を整理・可視化。友達や教師と意見交換し、解決策を具体化する。



抽出生徒Cについて

- ・自分の強みや課題を理解しているが課題の解決方法が分からない。
- ・なかなか自分の考えを話すことが難しい。

学びをつなぐキーワード

- ・自信と見通しがもてる活動の設定
- ・課題の絞り込み

授業改善と生徒の変容

Cの「欲しい本を一人で買いに行く」を課題とし、これまでの経験を基に難しさや不安を整理した。行き先や移動手段を考える中で、隣の駅前のコンビニに行くことや、友達とのやり取りから別のコンビニがあることに気付く、選択肢が広がった。課題を自分事として細分化することで、過去の経験がつながり、「できるかもしれない」という自信が生まれ、主体的に挑戦しようとする意欲の高まりが見られた。

まとめ

- 職業科の学習や現場実習等の経験を通して、自己理解の深まりが見られた。各学年で大切にしたい自己理解を深める視点は以下のとおりである。
- ・1年生：ゆっくり・じっくりと自己理解を深める
- ・2年生：夢の見直しや更新、具体化をしながら自己理解を深める
- ・3年生：自ら学びをつなぎながら自己理解を深める
- ▲キャリアノートの活用の充実
- ▲職業科と他の学習や家庭での生活を関連付ける視点

学びをつなぐ授業づくりのポイント（案）

- ①キャリアノートの活用の充実
- ②教科等横断的な視点での授業デザイン
- ③自ら学びをつなげる授業サイクル
- ④思考を広げる・深める工夫



**Green  
Great  
Global**

〒010-0101 秋田県潟上市天王字追分西27番地の18  
TEL : 018-870-4611  
FAX : 018-870-4612  
Email : [midori-s@akita-pref.ed.jp](mailto:midori-s@akita-pref.ed.jp)